




学校評価中間報告書






★：かほく市令和7年度重点目標

令和7年9月12日

経営目標		取組内容	現 状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価			後期の方向性
							%	昨年度前期との比較(%)	
1	学力向上	① 「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の取組の推進(県教育委員会より研究推進校に指定)★	・石川県教育委員会より研究推進校の指定を受けた「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」について全教職員で実践に取り組んでいく。本校では「令和の日本型学校教育」を生きていく上での課題解決に自ら挑むことと捉え、子供が自分で自分の背中を押す「学び続ける力」と、他者の学びと協働することで自己の「学びを調整する力」を養い、各教科でつきたい力の獲得を目指していく。	・教職員は子供に学び方を委ねた「高中スタイル」の授業に取り組んでいる。 【教職員・努力】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	C	88.2	新規	・「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の成否を測る視点で、昨年より学校評価の観点を新たにした。
				・教職員は「高中スタイル」の授業において、子供の評価を見取り「協働的な学び」につなげている。 【教職員・努力】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	88.2	新規	・昨年の研究成果と課題から「高中スタイル」という授業モデルを作成するとともに、教科を越えた視点で4研究部会を設けて全教職員で取組を実施している。教職員の努力目標の評価がC、B評価と、まだ改善の余地があるのは「子供に時間を委ねる」という怖さからのように思う。引き続き、教科部会を中心に授業研究を進めていく。
			・令和6年度の研究より「子供に学びを委ねる」授業実践に向け必要性を感じた、教師が子供の学びの姿を見取り、評価することで子供の学びを後押ししたり、「協働的な学び」につなげたりする取組を進めたい。	・授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。 【生徒・成果】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	94.3	新規	・11月の石川県教育委員会訪問、公開研究発表会において「高中スタイルの授業」を実施し、外部の方からも意見をいただき、研究の方向性と進捗について検証し、改善点を探る。
		② 学力向上プラン・学力向上ロードマップに基づく取組の推進	・各種学力調査の分析(教師の指導上の課題発見)を各教科部会で行い、その分析を全教職員で共有し、その内容を「教科等の資質・能力育成シート」に反映させている。	・教職員は、学力調査の結果を分析し、「教科等の資質・能力育成シート」に基づく指導をしている。 【教職員・成果】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	A	100.0	↑ (95.0)	・各種学力調査の分析(教師の指導上の課題発見)を各教科部会で行い、その分析を全教職員で共有している。その内容を「教科等の資質・能力育成シート」に落とし込むとともに、達成度を測る指標(過去の学力調査問題)を明記し指導している。
			・昨年2学期は指定研究の趣旨に応じた授業研究・実践を教科部会で実施した。今後も教科部会を単位に授業研究を行い、そこで得られた知識・経験を学校全体で共有することで学力向上に努めたい。	・教職員は、「教科部会の内容が充実している」と感じている。 【教職員・満足】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	B	94.1	↑ (90.0)	

経営目標		取組内容	現 状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価			後期の方向性
							%	昨年度前期との比較(%)	
2	豊かな心の育成	① 自己肯定感の育成	<p>・教職員にとっては生徒理解、人間関係構築の機会、生徒にとっては学校の中に相談できる大人がいると思えることを目的とする月に1度の教育相談を今後も継続していく。</p> <p>・授業のみならず運動会、合唱コンクール等の行事等において、生徒の頑張りや成長を見取り、認める・褒める指導を継続していく。</p>	・教職員は生徒を褒めたり伸ばしたりしながら、長所を認める(伝える)指導をしている。 【教職員・成果】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	A	100.0	— (100.0)	<p>・3年前より始めた生徒との人間関係構築を目的とする月に1度の教育相談を今後も継続していく。教職員にとっては生徒理解の機会とし、生徒にとっては、学校の中に相談できる大人がいると思える機会としたい。</p> <p>・「自分には良いところがある」と回答した生徒は昨年度前期より7ポイント増加した。後期は授業だけでなく運動会、合唱コンクール等、学習成果発表会等の大きな行事の機会を捉えて生徒の頑張りや成長を見取り、認める・褒める指導を継続していく。</p> <p>・「学校が楽しい」と回答した生徒は昨年度前期より5ポイント増加した。前期同様に毎月のアンケートで「楽しい」と回答できなかった生徒への面談を進めていく。</p> <p>・昨年度同様、約2割の保護者に「学校におけるいじめの未然防止や早期発見の取組」が伝わっていない。9月学校便り(学校評価アンケートの結果)に掲載して保護者へ周知を行った。</p> <p>・道徳の授業における教職員の自己評価は低いが、生徒は他者の考えを聞くことで、見方・考え方の広まりとともに自身の成長も感じているようだ。今年度より道徳教育推進教師が「道徳便り」を月に1度発行している。</p>
				・生徒は「自分には良いところがある」と感じている。 【生徒・成果】	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	77.2	↑ (73.4)	
		② 積極的・組織的な「支える生徒指導」の推進★	<p>・「学校が楽しい」と回答できなかった約1割の生徒を対象に面談の機会を設けるなど、生徒に寄り添ったの支援策を考えていく。</p> <p>・保護者アンケートの「学校におけるいじめの未然防止や早期発見の取組」を知っているの回答が、前期より5.5ポイント上昇した。9月学校便り(学校評価アンケートの結果)に掲載したことによると思われる。学校の取組を知らせることも大切だが、迅速で丁寧な保護者への対応を心がけていきたい。</p>	・教職員は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。 【教職員・成果】	A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:90%未満	C	94.7	↑ (90.0)	
				・生徒は「学校へ行くことが楽しい」と感じている。 【生徒・成果】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	94.5	↑ (89.1)	
				・保護者は、「学校におけるいじめの未然防止や早期発見のための取組」を知っている。 【保護者・満足】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	B	80.0	↑ (79.2)	
		③ 道徳教育の充実	<p>・道徳の授業改善についての教職員の評価が昨年度後期は10ポイント上昇した。昨年度に続き、生徒も他者の考えを聞くことで、見方・考え方の広まりとともに自身の成長も感じているようだ。今後も指定研究の実践に向けた取組をベースに「思考を深め、伝え合う力」を高める道徳の授業づくりに取り組んでいく。</p>	・教職員は道徳の授業において「考え議論する道徳」の実現に取り組んでいる。 【教職員・努力】	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	D	72.7	↓ (80.0)	
				・生徒は、道徳の授業において自分の思いを表現する場面がある。 【生徒・満足】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	96.2	↑ (93.6)	

経営目標		取組内容	現 状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価			後期の方向性
							%	昨年度前期との比較(%)	
3	健康教育の充実と体力向上	① 食育の推進	・生徒を対象として栄養教諭を講師に招聘し、食育についての学習会を実施した。保護者を対象に給食試食会・食育講座を実施することで、一昨年度までの、残菜0の指導から、将来の食生活を見通した指導が定着してきた。 ・保護者アンケートにおいて「お子様は朝食を毎日食べている」との回答が93%（「朝食を毎日食べている」と回答した生徒は96%）と例年になく高く、家庭での様子が気にかかる。	・学校は給食指導等の機会を捉え、食育指導を行っている。 【教職員・努力】	A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満	A	100.0	 (90.0)	・栄養教諭を講師に、食育講座を実施した。後期は、保護者を対象に給食試食会・食育講座を予定し、家庭との連携を図りたい。（「毎日朝食を食べている」生徒アンケート結果: 95%）
		② 体力・運動能力の向上★	・体力テスト8種目（男女とも）のうち、県平均以上の種目数が減少した。苦手種目について、保健体育の時間に補強運動を実施していく。	・体力テストにおける、県平均値以上の種目数(全8種目) 【生徒・成果】	A: 7種目以上 B: 6種目 C: 5種目 D: 4種目未満	D		— D	・体力テスト8種目（男女とも）のうち、県平均以上の種目数は 男子: 1年生2種目、2年生1種目、3年生6種目、平均3種目 女子: 1年生1種目、2年生0種目、3年生4種目、平均2種目 3年生男子は、2年次より2種目増加した。後期は苦手種目について、保健体育の時間に補強運動を実施していく。
		③ 適切なメディアの使い方の指導と啓発活動	・メール・ネットの使用時間は微増だが、今年度の特徴として「平日に1時間以上学習している」と回答した生徒が全生徒の3分の2を超えた。（昨年度より20ポイント以上増）健康な身体を作る中学生時代の生活について考える活動を今後も継続していく。また「かほく市ネットルール」を取り上げたり、実際に起こったトラブルを例に挙げ指導したりするなど、あらゆる機会を通じてネットモラル・マナーについて指導・啓発する機会を今年度も設けていく。	・学校はネット社会の光と影、マナーとモラルについて指導する機会を設けている。 【教職員・成果】	A: 4回以上 B: 3回 C: 2回 D: 2回未満	A		 B	・すべての教室に「かほく市ネットルール」のポスターを掲示し、機会を捉えて学年、学級を通してネットモラル・マナー及び時間の使い方について指導している。昨年度より8ポイント増加した。
				・生徒は「かほく市ネットルール」を心がけている。 【生徒・努力】	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	B	82.7	 (74.8)	・メール・ネットを2時間以上使用している（学習以外で）生徒は、平日、休日とも昨年より増加し、平日2時間以上使用している生徒が半数を超えた。（最近3年間で初）

経営目標	取組内容	現 状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価			後期の方向性
						%	昨年度前期との比較(%)	
4 円滑な組織運営と学校の活性化	① 組織的な学校運営と校務分掌の確立	・校務分掌部会が、整理・統合の視点から校務を見直す共通理解の場となっている。校務分掌部会は、学校評価アンケート結果を基に、分析や改善策も検討し円滑な校務遂行のための役割を果たしている。	・教職員は自己の役割が明確で職務を円滑に遂行している。 【教職員・成果】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	100.0	 (90.0)	・多くの取組において、昨年度より肯定的評価の割合が増加し、教職員の共通実践が見られる。後期もこの状態を継続していく。
	② 学校評価を生かした学校運営		・学校評価アンケートの結果の分析及び学校運営協議会の意見を基に、教育活動の改善位努めている。 【教職員・成果】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	100.0	 (90.0)	・石川県教育委員会より指定を受けた研究への取組が軸となり、学年会、校務分掌部会、教科部会等が計画的に行われ、共通理解や教育活動の検証・改善の場となっている。後期は、夏季休業中に実施した各部会が、学校評価アンケート結果を基に分析した結果を教育活動に生かしていく。
	③ 信頼される学校づくりのための連携強化★	・夏季休業中には3校共通の取組「子供主体の授業」について、実践報告し教科ごとで協議する場を設けた。	・小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。 【教職員・成果】	A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	A	100.0	 (90.0)	・夏季休業中に「子供主体の授業のあり方」をテーマに校区2小学校と教科を単位とし意見交換する場を設けた。後期には小中のスムーズな接続を図るために、6年生を迎えて授業体験、学校説明会を実施する。今後も業務の負担感を考慮しながら、児童生徒の交流や教職員間の交流を計画し中学校とのスムーズな連結を進めていきたい。
		・昨年度より業務の負担感を考慮し、小中連携の時期や内容の見直しを図った。今後も継続していく。						
		・「学校は相談や問い合わせに適切に対応してくれる」のA評価であった。今後も学校行事、各種たより、ホームページ等を活用し、学校の教育活動について保護者・地域への発信を進めていく。						
	④ コミュニティスクールを生かした魅力ある学校づくりの推進	・1年生の地域学習、2年生の職場体験学習、3年生のSDGs学習等、探究学習の講師に、1、2年生への本の読み聞かせ等に、50名を超える外部の方(職場体験受け入れ先を除く)に学校の教育活動に参画していただいている。生徒の視野を広げ、自身の生き方について考える機会を今後も教育課程に位置づけていく。	・保護者は学校便り・ホームページ等を通して、学校の方針や生徒の様子等を知ることができる。 【保護者・満足】	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	A	94.5	 (93.9)	・後期に各学年の探究活動の報告会を実施し、保護者、地域の方々が来校する機会を増やした。
			・学校は、地域の外部人材を積極的に活用している 【教職員・成果】	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	A	100.0	 (95.0)	・各学年の探究学習、2年生の職場体験学習、1・2年生への本の読み聞かせ、教職員研修会の講師等に、地域の方、外部からの専門家に講師を招聘した。後期もコミュニティスクールの強みを生かし、地域・外部の方の力を借り教育目標の実現に取り組んでいく。

経営目標		取組内容	現 状 (令和6年度最終報告より)	評価の観点	達成度判断基準 ※肯定的評価を基準とする ※CまたはDの場合再検討	評価			後期の方向性
							%	昨年度前期との比較(%)	
5	教職員の働き方改革の徹底	① 教職員の時間外勤務の削減★	<p>・文化祭を学習成果発表会に改編したことと、後期より平日の部活動休業日を1日減じたことより、昨年10月～2月の教職員の時間外勤務時間は、一昨年に比べて69時間減少した。</p> <p>・依然として時間外勤務が80時間を超える教職員もいるために、決められた時間内で働く意識をさらに高めていく。</p>	<p>・教職員は、効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方（働き方改革）を行っている。</p> <p>【教職員・成果】</p>	<p>A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満</p>	B	89.5	<p>↓ (90.0)</p>	<p>・時間外勤務時間を減少することが目的にならないよう、今後も生徒と向き合う時間の確保、生徒の学力向上、教員の授業準備時間確保等を目的とした時間外勤務を減少する努力をしていく。</p> <p>・3年連続で過去同月より教職員平均の勤務時間は減少している。これからも、決められた時間内で働く意識をさらに高められるようにしたい。</p>